

Building lifestyle around Ferrari

嗚呼、愛しのローマ

前号の当コラムで書いた『フェラーリ・ローマ』とそのデザイナーであるフラビオ・マンゾーニさんへの想い。その邂逅は、あと一步で実現せず……という話。



昨年秋にデビューした全く新しいV8FRクーペ、フェラーリ・ローマ。その美しさは写真だけで私を魅了し、フェラーリ・チェントロステイアレ（デザインセンター）を率いるフラビオ・マンゾーニさんが、かつて私が憧れたランチア・フルヴィア・コンセプトの作者であることもあり、実車を見る前からすっかり"ローマ推し"になってしまった……というような話を書いたのは前号の当コラムである。

そこで3月のジュネーブ・ショーにフェラーリが出展するとわかった瞬間（実はこれがなかなか確定せずにひやひやしていたのだが）、"会場に行けばローマに会える！"と思い、今年も取材へ行くことを決意。その時点では812GTOなるスペチアレのスクープ画像が出回っており、そっちの発表もあるかなと思いつつ、でもすっかり想いはローマへ。

そこでフェラーリ・ジャパンの広報へマンゾーニさんの単独インタビュー取材をダメ元で申し込んだところ、ショー開催の1週間前に何とOKが！ よし、こうなったら、巻頭特集は会場でローマのフルディテールを撮影し、それにインタビューを組み合わせて……と頭がフル回転。その時点で812GTOもしくは別の新車が発表されないことは、信頼できるイタリア方面からの情報で確信していたので、全体のページ構成も何となく頭

の中で仕上げて、翌週月曜日に迫った出国前のバタバタをこなしていた2月28日金曜日、20時過ぎのことである。1通のメールが送られてきた。そのタイトルは……。

GIMS is cancelled

!!!! GIMSとはもちろんジュネーブ・インターナショナル・モーター・ショーのこと。送り主はその主催者。中止の噂は絶えなかったが、週の前半に"昨今のウイルスは充分に気をつけて開催します"的なメールが来ていたので、こちらも覚悟を決めて行く決意をしたのに、まさかこのタイミング！ である。

かくして表紙も巻頭特集もこの時点で白紙に。季刊誌なのにまるで月刊誌のようなタムでゼロリセットして作るようになった……という話は1年前のデジャヴだが（気になる方はNo.125をご参照下さい）、そしてどうして今号のような構成になったかという話は誌幅もなくなってきたので省略するが、結局、ローマにもマンゾーニさんにも会えなくなってしまったのだ。

もちろん今回の新型コロナウイルスが、そんな悠長な話ではないことは充分に理解しているし、結果的に行かなくてよかったと今は心から思っている。でもやはり書かせて欲しい。

嗚呼、愛しのローマよ……。1日も早く事態が収束し、1日も早く"推し"に会える日がやってくることを願いたい。